伊勢物語

東下り　―品詞分解―

昔、男、身を要なきものに思ひなして、京には、あらじ、東の方に住むべき国求めにとて、行きけり。もとより友とする人、ひとりふたりして行きけり。道知れる人もなく、惑ひ行きけり。三河の国八橋といふ所に至りて、乾飯食ひけり。その沢に、かきつばたいと おもしろく咲きたり。それを見て、ある人のいはく、「かきつばた、と いふ五文字を句の上に据ゑて、旅の心を詠め。」と言ひければ、詠みてる。

から衣　着つつなれにしつましあれば　はるばる来ぬる旅をしぞ思ふ

と詠めりければ、みな人、乾飯の上に涙落としてにけり。

行き（カ四・用）　行き（カ四・用）　て、（接助・単接）　駿河の国　に（格助・帰着）　至り（ラ四・用）　ぬ。（完・終）　宇津の山

に（格助・帰着）　至り（ラ四・用）　て、（接助・単接）　わ（代）　が（格助・主格）　入ら（ラ四・未）　む（意・終）　と（格助・引用）　する（サ変・体）　道

は、（係助・提示）　いと（副）　暗う（形ク・用（ウ音））　細き（形ク・体）　蔦・楓　は（係助・提示）　茂り、（ラ四・用）

もの心細く、（形ク・用）　すずろなる（形動ナリ・体）　め（格助・対象）　を　見る（マ上一・体）　こと　と（格助・引用）　思ふ（ハ四・体）

に、（接助・単接）　修行者　会ひ（ハ四・用）　たり。（完・終）　「かかる（連）　道　は、（係助・区別）　いかで（副）　か（係助・疑問（係））

と（格助・引用）　いまする（サ変・体（結）・尊）修行者→男）。」　と（格助・引用）　言ふ（ハ四・体）　を（格助・対象）　見れ（マ上一・已）　ば、（接助・順偶）　見（マ上一・用）

し（過・体）　人　なり（断・用）　けり。（詠・終）　京　に（格助・場所）、　そ（代）　の（格助・体修）　人　の（格助・体修）　御

もと　に（格助・対象）　とて、（格助・引用）　文　書き（カ四・用）　て（接助・単接）　つく。（カ下二・終）

駿河　なる（在・体）　宇津の山べ　の（格助・体修）　うつつ　に（格助・場所）　も（係助・列挙）　夢

に（格助・場所）　も（係助・列挙）　人　に（格助・対象）　あは（ハ四・未）　ぬ（打・体）　なり（断・用）　けり（詠・終）

富士の山　を（格助・対象）　見れ（マ上一・已）　ば、（接助・順偶）　五月　の（格助・体修）　つごもり　に（格助・時間）、

雪　いと（副）　白う（形ク・用（ウ音））　降れ（ラ四・已）　り。（存・終）

時　知ら（ラ四・未）　ぬ（打・体）　山　は（係助・提示）　富士の嶺　いつ（代）　と（格助・引用）　か（係助・疑問（係））

鹿の子まだら　に（格助・状態）　雪　の（格助・主格）　降る（ラ四・終）　らむ（現原推・体（結））

そ（代）　の（格助・体修）　山　は（係助・提示）、　ここ（代）　に（格助・場所）　たとへ（ハ下二・未）　ば（接助・順仮）、　比叡の山

を（格助・対象）　二十　ばかり（副助・程度）　重ね上げ（ガ下二・用）　たら（完・未）　む（婉・体）　ほど　して（格助・手段）、　なり

は（係助・区別）　塩尻　の（格助・体修）　やうに（比・用）　なむ（係助・強意（係））　あり（補動・ラ変・用）　ける（過・体（結））。

なほ（副）　行き（カ四・用）　て（接助・単接）、　武蔵の国　と（格助・並列）　下総の国　と（格助・並列）

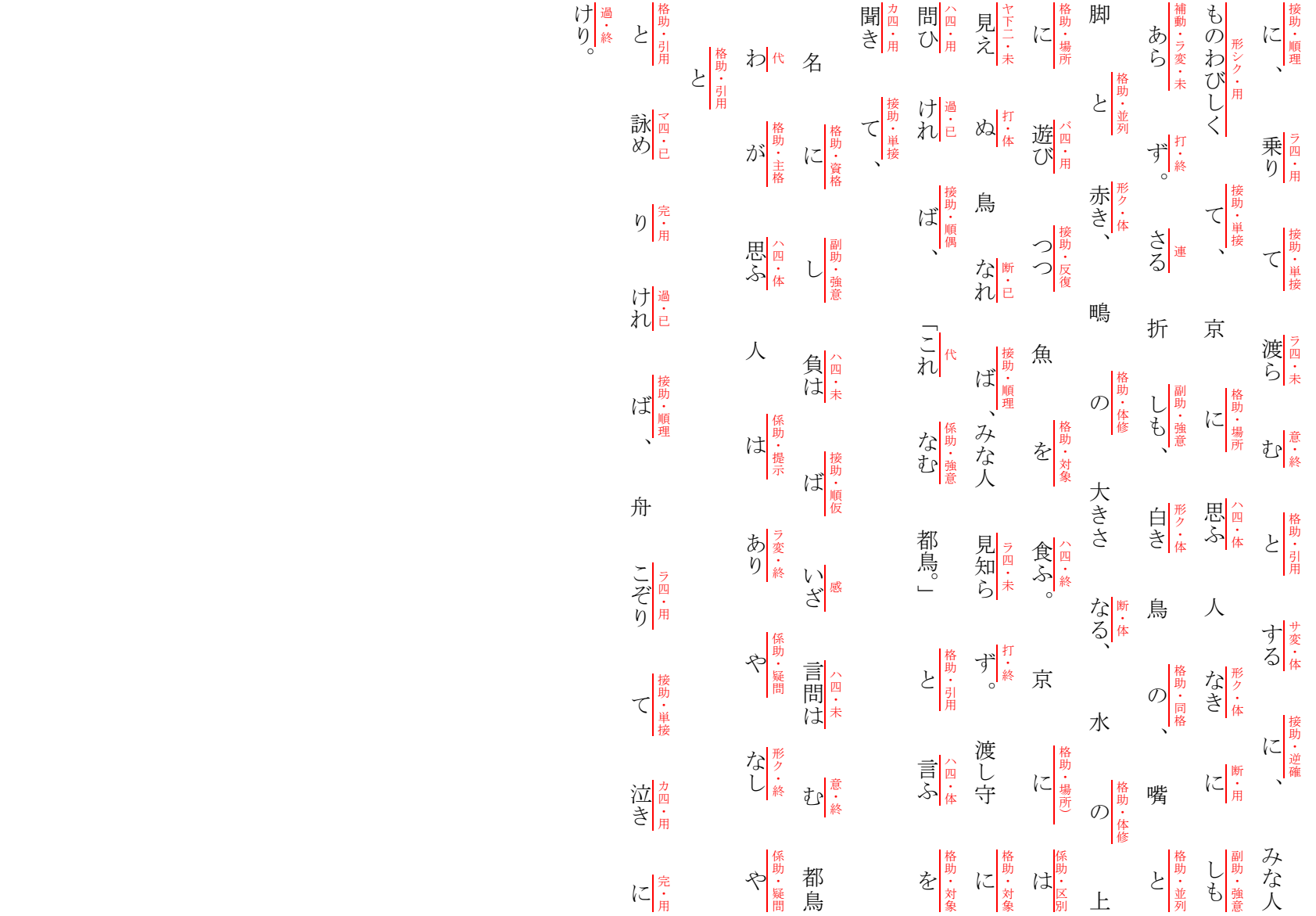
の（格助・体修）　中　に（格助・場所）、　いと（副）　大きなる（形動ナリ・体）　川　あり（ラ変・終）。　それ（代）　を（格助・対象）　す

みだ川　と（格助・引用）　いふ。（ハ四・終）　そ（代）　の（格助・体修）　川　の（格助・体修）　ほとり　に（格助・場所）

群れゐ（ワ上一・用）　て（接助・単接）、　思ひやれ（ラ四・已）　ば（接助・順偶）、　限りなく（形ク・用）　遠く（形ク・用）　も（係助・強意）　来（カ変・用）

に（完・用）　ける（詠・体）　かな、（終助・詠嘆）　と（格助・引用）　わび合へ（ハ四・已）　る（存・体）　に（接助・単接）、　渡し守、「はや（副）

に（格助・対象）　乗れ。（ラ四・命）　日　も（係助・同類）　暮れ（ラ下二・用）　ぬ。」（強・終）　と（格助・引用）　言ふ（ハ四・体）


接助・順理
に、
ラ四・用
乗り
接助・単接
て
ラ四・未
渡ら
意・終
む
格助・引用
と
サ変・体
する
接助・逆確
に、
みな人
形シク・用
ものわびしく
接助・単接
て、
格助・場所
に
ハ四・体
思ふ
形ク・体
白き
格助・同格
の、
格助・並列
と
補動・ラ変・未
あら
打・終
ず。
連
さる
副助・強意
しも、
格助・体修
の
断・体
なる、
格助・場所)
に
係助・区別
は
副助・強意
しも
脚
格助・並列
と
形ク・体
赤き、
鳴
格助・体修
の
大きさ
格助・体修
の
上
バ四・用
遊び
接助・反復
つつ
魚
格助・対象
を
ハ四・終
食ふ。
京
格助・対象
に
格助・対象
に
ヤ下二・未
見え
打・体
ぬ
鳥
断・已
なれ
接助・順理
ば、みな人
ラ四・未
見知ら
打・終
ず。
渡し守
格助・引用
と
ハ四・体
言ふ
格助・対象
を
ハ四・用
問ひ
過・已
けれ
接助・順偶
ば、
代
「これ
係助・強意
なむ
都鳥。」
カ四・用
聞き
接助・単接
て、
名
格助・資格
に
副助・強意
し
ハ四・未
負は
接助・順仮
ば
感
いざ
ハ四・未
言問は
意・終
む
都鳥
代
わ
格助・主格
が
ハ四・体
思ふ
人
係助・提示
は
ラ変・終
あり
係助・疑問
や
形ク・終
なし
係助・疑問
や
格助・引用
と
マ四・已
詠め
完・用
り
過・已
けれ
接助・順理
ば、
舟
ラ四・用
こぞり
接助・単接
て
カ四・用
泣き
完・用
に
格助・引用
と
過・終
けり。